

所報

No.125
平成30年6月20日

富山県総合教育センター

富山市高田525

E-mail:center@tym.ed.jp(代表)
URL:http://center.tym.ed.jp/

目次

- 巻頭言……………1
- 今年度の研修事業より……………2
- 調査研究事業の概要……………3
- 特別寄稿(徳橋客員教授)……………4
- 随想……………4
- 研修顧問・学力向上アドバイザー・客員教授の紹介…5
- 第35回高等学校生徒海外派遣事業帰国報告…5
- 連載「知って得30」……………6

巻頭言

キャリアを考える

所長 麦谷 直人



総合教育センターでは、調査研究や教職員研修、教育相談、生徒実習、県立学校の事務の支援等の業務を行っているが、最近、キャリアという言葉が印象に残っている。

県教育委員会が年2回、国の方針のもと、キャリア教育指導者養成研修を開催しており、昨年度から総教セがその運営を担当している。全国から集まった受講者は、5日間の日程で、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方法などについて研修している。昨年度はキャリア教育に協力している県内の企業や地域の人々を交えた協議、高岡市ものづくり・デザイン科や14歳の挑戦の取り組みを紹介するなど、富山ならではの工夫がある。

キャリアはラテン語の車道や轍を意味する言葉が語源であり、人がたどる遍歴や経歴を意味するようになった。キャリア教育では「一人一人がこれまでの人

生の中で歩んできた道、そして、これから歩んでいく道」を総体的に表すものであり、人生そのもの、生き方そのものである。新学習指導要領では、小学校から高校まで、特別活動に「一人一人のキャリア形成と自己実現」の項目を設け、キャリア教育の接続を重視している。また、教育活動全体を通じて必要な資質・能力を育成することを求めている。富山県でこの研修が実施される意義は大きい。

ところで、今年3月、県教育委員会から教員等の資質向上のための指標が示された。教員のキャリアに応じて求められる資質を確認し、生涯にわたって学び続ける教員が育つことを目指して策定された。総教セでは、この指標を踏まえて年次研修や専門研修等、より一層の充実を図っていく。一方、キャリアは、仕事だけでなく、家庭生活や地域等で様々な役割を担うことでも磨かれていく。研修はもちろん、読書や趣味、様々な役割や経験を通じた学びが、資質向上にとって大切だと考える。この機会に、自らのキャリアを振り返り、一層の資質向上に努めたい。

平成30年度初任者研修会・新規採用教職員研修会より



講義「教育公務員としての心構え」



講義「学校における人権教育」



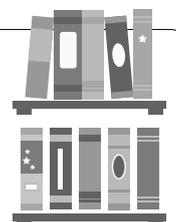
講義「マナーアップで魅力づくり」

- News -

教育資料の貸出や相談にご利用ください。

センターの教育資料室には9万3千点に及ぶ豊富な教育資料をとりそろえています。目的に応じた資料の検索、閲覧及び貸出をしています。相談にも応じます。

お問合せは (TEL 076-444-6169) まで。 利用時間 平日/8:30~17:00



今年度の研修事業より



教育研修部

若手教員研修(初任者研修会)・新規採用教職員研修会

高等学校・特別支援学校教員(4/4)、小・中学校教員(4/12)、学校栄養職員(4/19)を対象に開講式が行われ、今年度の研修会が始まりました。

4月26日には、全校種での共通研修「教職員としての自覚と使命2」が行われ、教職員としての接遇の仕方や情報モラルについて学びました。

今年度は、各校種で年間計12~15回の研修が行われます。



接遇の仕方



情報モラル

○今後は次のような研修を行っていきます。



宿泊研修



学級経営



協力校研修



情報教育



科学情報部

若手教員研修(理科実験・観察の指導1,2)

観察や実験を進めていくために必要な基礎・基本となる内容について、小学校の若手教員(初任者及び2年次の教員)を対象に行っている研修です。若い先生方の理科指導力の向上を図ることで、先生方の実験・観察への不安を軽減し、児童と共に理科を学ぶ意欲が高まるよう研修を心がけています。初任者が受講する研修(理科実験・観察の指導1)では、物質・エネルギー、2年次教員が受講する研修(理科実験・観察の指導2)では、生命・地球の内容で行います。児童や先生方に、「理科が「分かる」「楽しい」教科となるよう支援していきたい」と思います。



理科実験・観察の指導1
(エネルギー：電気に関する基礎知識)

<参考・問い合わせ> ●デジタル理科室：<http://digirika.el.tym.ed.jp/>

●理科の質問箱：rika-q@tym.ed.jp



教育相談部

学校カウンセリング講座

学校カウンセリング講座は、全コース2日間ずつの5コースを開講します。今年度から学校カウンセリング全般の基礎的な内容を広く研修する「教育相談基礎コース」を新たに設けました。どのコースも先生方のニーズに応じた内容になっています。



教育相談スキルアップコース

児童生徒や保護者との面接、面談の仕方を演習します。また、子供のよさを伝えるポイントや関わり方について学び、相談のスキルアップを図ります。

人間関係づくりコース

学級で行うソーシャルスキル・トレーニング、対人関係ゲーム等、学校での応用の仕方について演習を取り入れながら学びます。

教育相談基礎コース

教育相談の基本姿勢、面接・面談の進め方や配慮事項、事例検討から児童生徒を理解する方法を学びます。

事例検討コース

マッピング付箋法、インシデント・プロセス法を用いた事例検討の演習をします。児童生徒の心情を理解し、方針や方策を立てます。

チームによる支援コース

学校における効果的なチームによる支援の在り方を考え、模擬ケース会議の演習を行います。また、学校内外の援助資源について考え、リソースマップを作ります。

***学校カウンセリング講座は、どの講座からでも受講できます。**

調査研究事業の概要

平成31年2月22日(金)に研究発表会を開催し、研究成果を発表します。

✎ 教育研修部

「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る指導に関する調査研究 — 探究的な言語活動の視点から —

現行学習指導要領のもとで、思考力、判断力、表現力等を育むために、言語活動の充実による授業改善が図られてきました。しかしながら、全国学力・学習状況調査の結果等から、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることや既習の知識・技能を活用する力について課題があることが明らかとなっており、富山県の児童にも同様の傾向がみられます。また、2017年告示の小学校学習指導要領では、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各教科等の言語活動を充実させ、言語能力の確実な育成が求められています。

このような状況を踏まえ、習得した知識・技能を活用し、根拠や理由を明確にして説明したり表現したりする言語能力を育成するには、児童同士や児童と教師との対話の場の工夫が必要であると考えます。

そこで、児童が問題解決に向けた話し合いを通じて、考えを深めたり、広げたりする対話に焦点を当てた授業改善に取り組むことで、深い学びのより一層の充実が図られるものと考えます。

本調査研究では、グループ等の少人数による話し合いの場に焦点を当て、

- 「主体的に考えたい学習課題」
 - 「対話を促進する環境」
 - 「学びを促進する評価」
- の3つの視点をもとに授業改善に取り組みます。



🔬 科学情報部

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習の在り方に関する調査研究 — 観察、実験における課題解決型学習を活用した理科指導の充実 —

平成29年、新学習指導要領が告示されました。その中で「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、(中略)児童に生きる力を育むことを目指すものとする。」と示されました。また、各教科の目標においても教科の学習を通して育てたい児童生徒の資質・能力が、学力の三要素の観点から整理されました。

本調査研究では理科の授業改善に焦点をあて、観察・実験を核とした課題解決型学習の一連の学習過程を「主体的・対話的で深い学び」の視点で見直し、児童生徒の資質・能力の育成のために「どのように学ぶか」に重点を置き研究します。具体的には、児童生徒の学習活動や教員の学習支援の在り方と児童生徒の資質・能力の伸長との関係性を明らかにし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導の要点を整理し、作成します。また、作成した学習指導の要点をもとに授業計画・実践を行い、その効果と有用性について確認します。

本調査研究で得られた成果を、日頃の先生方の授業に役立つよう発信していきます。

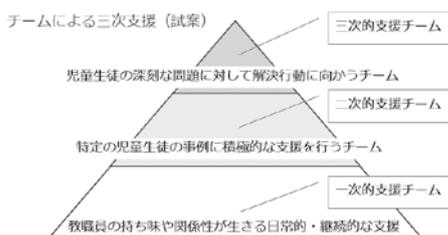
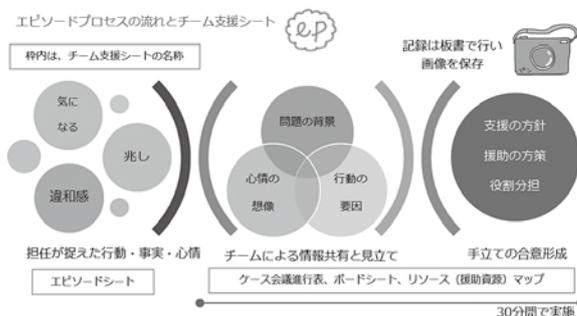


♡ 教育相談部

児童生徒へのチームによる支援の在り方に関する調査研究(2年次) — 日常的・継続的な支援につながるエピソードプロセスの開発 —

複雑化・多様化する児童生徒の困難な状況への対応には、協働的・機能的なチームによる支援が有効です。平成29年度は、チームによる支援における情報共有や合意形成の中心となるケース会議の仕組みとして、エピソードプロセス(episode process:以下、ep)を考案しました。

気になるエピソードを基に、児童生徒の行動の要因や心情の想像によって困難な状況を見立て、援助資源を生かした具体的な手立てについて検討できます。どの先生にも分かりやすく、どの学校でも取り組みやすいよう「チーム支援シート」としてまとめました。研究協力校での実践により、チームによる支援体制づくりを促進させることが確かめられています。



今年度は、epを1、2学期程度の比較的長い期間にわたって活用し、早期対応や継続的な対応につながる学校の一次的支援チームへの影響について検証します。学校現場で活用できるよう改編し、今後の研修や学校支援訪問を通して提供していく予定です。

epは、モニターを希望する学校や教育団体でお試しいただくことができます。詳しくは、教育相談部までお問い合わせください。

「仕事」と「サービス」

客員教授 徳橋 曜



昨今、教師というのは長時間労働と休日出勤が当たり前で、親や子供への対応で大きな精神的負担も強いられるブラックな職業だという評価が、社会に広まっており、学生の教職志望動向にも影響が出ています。富山大学人間発達科学部では例年、1学年の

7割ほどの学生が何らかの教員免許を取得しますが、教員志望の学生はその半数ほどで、当初から教職に就かないと決めている学生もいます。生半可には教員になるまいという覚悟の表れとも取れますが、免許取得希望者自体も減る傾向があり、学部としても危惧しています。

封建的主従関係を「御恩」と「奉公」の概念で捉える文化があったせいか、日本では、良くも悪くも雇用が単なる契約関係を越えたものと捉えられ、それが働き手に職場への奉仕を強要し、その中で自己都合を優先することを「我儘」と捉える雰囲気を生んできた側面があるようです。これに対して、労働者は独立した存在で、雇用主に従属する者ではなく、その基本的権利は守られなければならないとい

うのが、近代以降の労働概念です。「和」も大事ですが「個」も大事なのです。しかし逆に、一個の人間として仕事に打ち込む自由もあるはずで、機械的な「働き過ぎ」の禁止は無意味です。仕事の対価は金品や処遇向上だけではありません。人を育てる仕事において子どもの成長や笑顔を見ることは大きな「報酬」であり、そのために時間外も休日もなく仕事に打ち込むことがときにあっても、必ずしも非難されるものではないと思います。問題は、教育現場が抱える様々な問題ゆえにハードワークが常態化し、それが本人の意思を無視したサービスになりかねない現状でしょう。「サービス」の語はラテン語のservitium（隷属・奴隷状態）に由来しますが、教師が学校現場の奴隷となることなく、自立した職業人として仕事の喜びを感じられる環境を整えるにはどうすべきなのかを皆で考え続けなければなりません。実は、教師である親から「教員にはなるな」と諭されたという学生もいます。自分が教師だから子供も当然教師と決めつけるのは親のエゴですが、教師自身が胸を張って自分の職業を子供に勧められない現状は、なんとかしなければなりません。それが教育そのものの環境を改善することにもなりましょう。

随想

山あろき

科学情報部長 大浦 栄治

山について偉そうに書けるほど山に行っているわけではなく、過去に本格的に山登りをしていたわけでもないが、1年に1回、1泊2日程度、夏の暑さを避けて涼しいところを、景色を眺めながらあるくのを楽しみにしている。勤めがけの頃に山が好きな先輩の先生に誘われて長野県方面の山を中心に何度か連れて行ってもらったことがきっかけである。転勤等もあり、その後20年以上仕事以外では山へ行くことはなかったが、7年前にまた転勤を機に久しぶりに山に行きたくなり再開した。

最近、高齢者の山の事故が問題になっているが、一人で動くことの気軽さを覚えてしまうとこれがやめられない。自分のペースであるけるし、気がねなく休める。途中でやめて帰ることも簡単にできる。しかし、体力や運動能力の低下もあり、最も危ない入山者のひとりになりつつあることは間違いなさそうである。

4年前に薬師岳に行ったとき、勤めがけの頃に何回か一緒に山へ行った仲間とばったり出会いちょっとびっくりした。

3年前に少し足を伸ばして奥穂高岳に行ったとき、体力の低下を気にして、ネットで見かけた登山

用タイツを喜んで購入し使ってみた。スタートは大変足も軽く快調だったが、体力が増えるわけでもなく、結局山小屋に着く直前は足が動かずへろへろであった。便利な道具はいろいろ出ているが、決して力の総量を増やすものではないことを思い知った。また、次の日の下山のとき、いつになくあるきにくいと思いながらあるいていたのであるが、途中で正月頃にサングラスを車の運転用に遠近両用のものに買い換えていたことを思い出した。レンズの下半分が老眼用なので、上りの時は全く違和感がなかったのに、下りになると足元がぼやけて見えにくく、知らず知らずのうちに頭がいつもより下を向いた状態であるいていた。当然あるきにくい。こんな間抜けな者はいないだろうが山では遠近両用のメガネは使わない方がよさそうである。

いろいろ変な失敗はするが、時間に余裕ができたならもう少しのんびり山をあるきたいと思っている。



研修顧問・学力向上アドバイザー・客員教授の紹介

今年度は研修顧問と学力向上アドバイザーそれぞれ1名と、富山大学人間発達科学部から4名の客員教授が着任されました。

研修や調査研究事業等において助言をいただくことになっております。

山崎 弘一	研修顧問
吉江 友秋	学力向上アドバイザー
徳橋 曜	客員教授 (代表、企画調整部)
増田 美奈	客員准教授 (教育研修部)
土井 徹	客員教授 (科学情報部)
小林 真	客員教授 (教育相談部)



第35回富山県高等学校生徒海外派遣事業帰国報告

企画調整部企画課 研究主事 往蔵 健

平成30年3月5日(月)～3月16日(金)までの12日間の日程で、派遣団は、台湾、シンガポール、マレーシアを訪問してきました。「環境問題及びふるさと富山と国際交流」を研修テーマとし、県内の20の高校等から20名(男子4名、女子16名)が参加しました。テーマの観点ごとに今回の訪問の概要をお伝えします。

環境問題

佐藤工業シンガポール支店やYKK台湾社といった現地進出の日本企業見学や、各国の日本国大使館を訪れ、環境問題への取組を教えてもらいました。どの国もヘイズ(野焼き等により生じた煙等の微粒子が原因の大気汚染)のような大気汚染問題から水資源問題等の問題を抱えており、シンガポールのNEWater(飲用可能な水準まで高度処理した再利用水)のようにそれぞれ対策は取っているものの、一国では解決できない問題に国としての政策の重要性や小学校からの学校教育の大切さを強く意識したようでした。



佐藤工業(株)建設実績の見学



シンガポール国立大学
日本研究学科の学生との交流

ふるさと富山と国際交流

現地の高校や大学など4校を訪問し、英語によるふるさと富山紹介のプレゼンテーションや小グループでのディスカッション等の交流を通して同年代の人たちと接することで、積極的に自己表現をするようになりました。また、2泊3日の

台湾でのホームステイ、訪問先の史跡や文化遺産等の見学を通して、訪問国と日本との関係、相手を理解しようとする気持ちをもつようになりました。



高校訪問(台北市立内湖高級中学)

【派遣団員の言葉】

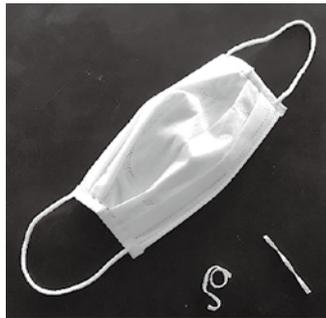
- ・ホームステイや学校訪問等の交流活動では、英語に不安を感じながらも、勇気を出してジェスチャーを交えながらコミュニケーションを図ることができ、自信になりました。
- ・他国の文化等に触れることで、日本のよさや課題について考える機会になるとともに、これまでとこれからの自分自身を見つめるよい機会になりました。
- ・日本国大使館や富山県人会の皆さんからは、海外で暮らしているからこそ分かる、文化や習慣について教えていただきました。また、海外で活躍する日本人に大いに刺激を受けました。

理科の
ちょっといい話

形状記憶プラスチック

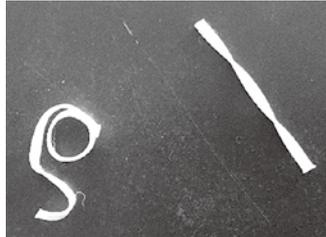
科学情報部 研究主事 藤本 聡司

春先、花粉症の人にはつらい季節がやってきます。かく言う私もその一人なのですが、この時期、マスクが手放せなくなる人も多いのではないのでしょうか。最近のマスクはその上部に鼻の形に合わせて変形できる部分がついており、顔との隙間を極力無くせるように作られています。この部分に入っているワイヤーの



ようなもの、実は金属ではなくプラスチックでできていることをご存じでしょうか？

このワイヤーは自由に曲げることができ、作った形をある程度保持できます。まっすぐなワイヤーを曲げた後お湯等につけて温めると、完全ではあり



ませんが元の形に戻ろうとします。

このような素材では、形状記憶合金が有名ですが、同様のことが可能なプラスチックは形状記憶ポリマー (shape-memory polymer = SMP) と呼ばれます。

では、その仕組みはどうなっているのでしょうか？

プラスチックと同じポリマー(高分子)でできている輪ゴムを例にあげてみます。輪ゴムは引っ張って伸ばしても手を離せば輪に戻ります。輪の形が一番安定しているからです。ポリマーはモノマー(単量体)という小さな分子がつながって鎖のように長くなった化合物ですが、鎖の要所に架橋という原子や分子の橋を架けて硬さを変えたり、形を固定したりできます。こうして作った最初の形が最もエネルギー的に安定となるため、変形させても元の形に戻ります。形状記憶ポリマーは室温程度では硬く、熱を加えると柔らかくなるため、熱した状態で変形して冷やせば形が固定され、お湯につけるなどすれば最初の形に戻ります。

様々な特性をもつポリマー層を組み合わせ、利用状況に合わせて曲げ伸ばしできる形状保持ポリマーや形状記憶ポリマーが開発されています。素材としても面白い上、冒頭のマスクのワイヤー等はポリエチレンなので分別せずに可燃ゴミにできます。

温度以外の刺激で元の形状に戻る形状記憶ポリマーも開発されているそうです。プラスチックの可能性はまだまだ広がりそうですね。

教育相談

連載

なんとなく、そばにいる

教育相談部 客員研究主事 舘野 智子

中2から中3にかけて2年近く、個人的に家庭訪問した不登校男子がいました。担任、学年主任らの訪問には応じませんでした。母親によると、学習面や友達関係に問題はないけれど、自分の気持ちを言葉で表現することが苦手とのこと。担任から発言を求められて答えられず、「言えるまで立ってる」とそのままにされたことで、教室に入れなくなりました。得意な野球の試合でも、周囲の期待に押しつぶされそうになるのか、泣き出してしまったことが何度かあったそうです。

彼の部屋には、好きなアニメのフィギュアが整然と並んでいました。月1、2回の訪問では、健康チェックとたわいもない話をするくらい。週末になると、仲のいい友達と外へ遊びに出掛けていました。家族関係もよく、家では元気に過ごしていました。そうすると逆に、「どうして学校へ行けないのか、分からない」と母親の目には大粒の涙があふれました。

ある時、学校へ行かない理由を尋ねてみました。返ってきた答えは、「人とどう話せばいいか分からん。考えているうちに涙が出る」。泣くのは恥ずかしいと思って

いるのでしょうか。「お母さん、あなたのことが理解できなくてつらいみたい」と言うと、「説明するのが面倒。自分で決めたら行くから」と答えました。その言葉に、信じて待とうと思いました。何の確証もありませんでしたが。

3年の秋、彼の部屋が一変しました。フィギュアが跡形もなく消えていました。「どうしたの?」「もういいかな、と思って」。動き出す予感がしました。相談室に行く日が少しずつ増え、進学先が決まった頃、堰を切ったように言葉を紡ぎました。「泣き虫な自分が嫌だったけど、泣きながらでもいいから思っていることを伝えようと思えた。途中からは、不登校の自分を眺めて楽しんでいる自分がいた」。

高2になった彼に聞いてみました。「どうして私を部屋へ入れてくれたの?」「なんとなく」。なんとなく・・・それ以来、好きな言葉になりました。

